「手当を増やした」という 175 施設に対して、その対象の医師の内容をみると、全体では、「特定の医師」が 44.0%で最も多く、次いで、「医師全員」が 39.4%、「特定の診療科に 勤務する医師」が 34.9%となった。

施設基準届出別にみると、「入院時医学管理加算」の届出施設では、「医師全員」と「特定の医師」(ともに 42.4%)が最も多く、次いで「特定の診療科に勤務する医師」(36.4%)であった。また、「医師事務作業補助体制加算」の届出施設では、「特定の医師」(44.8%)が最も多く、次いで、「医師全員」(44.0%)であった。「特定の診療科に勤務する医師」(29.3%)は他の施設基準届出施設と比較すると低い割合となった。「ハイリスク分娩管理加算」の届出施設では、「特定の診療科に勤務する医師」(44.9%)が最も多く、次いで、「特定の医師」(41.5%)、「医師全員」(34.7%)となった。

0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0% 100.0% 39.4 42.4 医師全員 44.0 34.7 34.9 36.4 特定の診療科に勤務する医師 29.3 44.9 44.0 42.4 特定の医師 44.8 41.5 ■入院時医学管理加算 ■全体(n=175) 届出施設(n=33) ■医師事務作業補助体制 ■ハイリスク分娩管理加算 届出施設(n=118) 加算届出施設(n=116)

図表 53 手当を増やした対象の医師(複数回答、施設基準届出別)